

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	千葉大学	整理番号	1902
プログラム名称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム		
プログラム責任者	内山 直樹	プログラムコーディネーター	米村 千代

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>[総括評価]</p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、人文系に特化し、デジタル・ヒューマニティーズという新たな領域を組み込んだ臨床人文学教育プログラムを、大学を超えて4大学1機関で組織的に連携し、各大学の持つ人文系の教員規模及びデジタル教育体制の制限を乗り越えて育成を行っており、さらに、全国的に整備が遅れている人文系博士のキャリアパスを展開しようとしている点が評価できる。</p> <p>修了者の成長については、このプログラムに対する履修生の期待や関心は非常に高く、応募者数も入学定員を超えて、各連携大学において入学者を得ている。一方、まだ本プログラムの修了者の数は少なく、途中就職等による辞退者も一定割合おり、履修生総数の充足率は70%程度にとどまっているため改善を期待したい。また、育成に関しては、デジタル技術を活用した人文系研究が新たに進んでいる点、海外機関との教育の実践が進められている点は評価できる。今後は、より進んだAI・デジタル技術に対して各大学の教員の配置状況を超えて、履修生の要望に応えることができる体制の整備が期待される。</p> <p>キャリアパスの構築については、キャリアデザイン履修科目群の設置とともに、人文系学生の企業や自治体等での活躍に向けてのキャリアパスの掘り起こしが積極的に図られている。特に、卓越大学院連携企業群や経団連等の経済団体との意見交換が進められている点は高く評価できる。今後は、各連携大学が持つ産業界等のネットワーク等も組み込んでさらなる発展を期待したい。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、学長のリーダーシップのもと強化されている。学内的には、人社系大学院教育改革センターを令和8年4月に設置して進める予定である。本プログラムの補助期間終了後の発展に向けては、令和7年3月に新たに2大学が加わった人文社会科学系大学院コンソーシアムを構築して、共同指導プログラムも含めた本プログラムの輪を全国規模に展開しており、これらの点も高く評価できる。ただし、履修生数が大学ごとに大きく異なる点については、連携の実質化のために更なる工夫を期待したい。</p>